

同人誌制作活動の背景とあゆみ —30年間の活動を振り返って—

ご講演: 井上 学先生(龍谷大学教授)

※本研究会は科学研究費基盤研究(C)「日本の<図書館出版>の現状・課題・可能性:ダイヤモンドOA振興に向けた基礎調査」(25K15810)のプロジェクトの一環です。



2025年11月8日 京都大学稲盛財団記念館(東南アジア研究研究所)

司会・解題: 高橋 愛典(近畿大学教授)

討論者: 原田 隆先生(東京科学大学特任教授)

1. 出版流通とわたくし(解題者)

- 「本が好きになるように」との両親の思いから命名された解題者であるが、大学入学後の通学電車の中から乱読が始まり、出版流通の研究にも手を染めるようになった
 1. 助手の頃(博士課程後半)に学内紀要『早稲田商学』の編集を担当・・・原田先生は院生時代の後輩にあたる
 2. 大学院は交通論専攻、現在の担当科目はロジスティクス論(物流)・・・出版流通は情報通信への代替も考慮
 3. 研究者が出版に関しては「実務家」になる・・・
情報の生産者と消費者が「攻守交代」する可能性

2. 京都での閃き

- 岡崎で文学フリマ(文フリ)に初見参・・・仲俣暁生先生
(「軽出版」の提唱者、大正大、地域デザイン学会)ご上洛
- コミックマーケット(コミケ)もこんな感じ?と井上先生を思い出す・・・鈴木晃志郎先生(富山大)と立命館の同級生
 1. 自治体交通政策(主にバス)の会議で長年ご一緒
 2. 学生時代の鉄研の延長?で自費出版、コミケで販売
 3. 地理学者として別途、論文や著書(『京都の路線バス徹底解剖』オーム社)も執筆・・・どう使い分けられている?

3. 文化系部活動とその成果発表・学問

- 文系理系を問わず、「学生時代は鉄道研究会にいた」
交通研究者は多い(高橋は帰宅部でしたが)・・・学園祭・
会誌が研究成果の発表の場→学会(誌)に慣れやすい？
- 商学の「広告論」・・・戦前の大学で「広告研究会」の会長・
顧問を務めた商業学者が、広告研究に目覚めた可能性
- 「文芸」と早稲田・・・文学部「文芸専修」は文芸部の延長
か？(近大の文芸学部は別の文脈)、学園紛争の内ゲバ
で殺された学生を悼み同人誌を創刊(樋田毅『彼は早稲
田で死んだ』)、仲俣先生の頃の「軽オフ(セット印刷)」

4. 〈図書館出版〉とどう関係するの？

- 学術出版の日本的(ガラパゴスな)エコシステム・・・
「出版助成」も難関、学生は教科書を買わない、オープンアクセス化の圧力(博士論文の出版からして危機的状況)
- それでも世に問いたい・・・もちろん学内紀要(拙稿「私、紀要の味方です」)やワーキングペーパーは活用するのだが
- 「軽出版」(前掲)と「内田樹方式」への道・・・SNSでの喧嘩
- 片手に『校正記号の使い方』、もう片手にInDesignの時代が研究者にやって来る？・・・大学図書館に助けてほしい：
編集・印刷・組版・広報という機能の分化と再統合の展望

というわけで(?)盛り上がりましょう!

